

令和8年度宮城県地域資源活用・地域連携等人材育成研修業務の企画提案に係る質問への回答

令和8年5月20日掲載

No.	質問事項	回答
1	「座学、演習等の講義を16回（2時間程度／回）」とありますが、午前2時間・午後2時間という形で講義を実施した場合、2回分としてカウントされる認識でよろしいでしょうか？	御認識の通りです。
2	◆講師の選定・記載レベルに関する質問 仕様書4(7)イにおいて、「企画提案時点において特定の講師を選定できない場合、想定する職種等とともに、想定している講師を提案すること」とあります。企画提案書に記載する講師について、提案時点で「内諾を得ている講師」のみを記載することが望ましいでしょうか。あるいは、「現在交渉中・今後打診予定の候補者(個人名や企業名を含む)」を記載した場合でも評価の対象となりますでしょうか。候補者の記載方法について、県の想定するレベル（実名必須か、属性・肩書きのみでよいか）をご教示ください。	業務仕様書4（7）イに記載のとおりですが、提案された内容・分野の講義が、想定される講師によって確実に実施できる体制であることが望ましいです。 ただし、講師が属性や肩書きのみで評価がしにくい場合もあるため、「現在交渉中」などを明確に記載することで、具体的な候補者を提案していただくことは可能です。
3	◆「実践的な個別伴走支援」の組み込みに関する質問 仕様書4(2)の「演習等の講義については、県内で実施」および「事業計画書が策定できるよう支援」についてお伺いします。単なる会場でのグループワーク等にとどまらず、受講者それぞれの事業現場（農場や加工場、店舗等）に講師や企画推進員が直接赴き、個別具体的に事業計画のブラッシュアップや現場指導を行う「現地伴走型の演習」をカリキュラム（全16回のうち数回分）として組み込むことは、本業務の趣旨として認められますでしょうか。	「講義」については、座学形式で、事業計画の作成に至るまでの多様な分野について学ぶことを想定しております。なお、受講生それぞれの事業現場に赴くことや個別の支援を妨げるものではありませんが、特定の個人のみへの支援となるものは認められません。
4	◆卒業生（過去の受講生）や実践者とのネットワーク活用に関する質問 本研修の目的である「地域資源活用・地域連携」をよりリアルに学ばせるため、講師として専門家を招くだけでなく、実際に県内外で6次産業化等を実践している現役の農林漁業者（あるいは過去の本研修修了生）の現場視察や、彼らとの意見交換会を「講義・演習」の1回として企画することは可能でしょうか。また可能な場合、視察先への謝金等は直接経費（謝金または業務経費）として計上可能でしょうか。	現場視察や意見交換会を演習という形で企画することは可能です。なお、それに係る費用（謝金、交通費等）については計上可能ですが、業務仕様書4（2）※も御確認ください。
5	◆単発参加回（オープン講座）のターゲットに関する質問 仕様書4(2)に記載のある「受講者以外の者も単発で聴講可能な形式で開催する1回程度の講義」についてお伺いします。この単発参加回は、広く一般県民にも公開するような「大規模なオープンセミナー形式」を想定されていますでしょうか。それとも、次年度以降の受講生発掘や、地域連携のパートナー候補となり得る県内の関連事業者等にターゲットを絞った「クローズドな体験・交流の場」として企画してもよろしいでしょうか。	規模・内容については特に定めはありませんので、自由に御提案ください。